

希望は欺かない
Spes non Confundit
2025年通常聖年公布の大勅書
教皇フランシスコ

昨年 2024 年 5 月 9 日に教皇フランシスコは『Spes non confundit; 希望は欺かない』という 2025 年通常聖年公布の大勅書を公開されました。教皇様はなぜ、希望を聖年のテーマとして選んだのでしょうか。そして、教皇フランシスコがこのテーマから期待されることは何なのでしょう。

大勅書の最初に書かれた通り、今回の聖年において、すべての人があらためて希望を持つように期待されています。希望は欺かないという通常聖年の公布大勅書のタイトルは、ローマ教会に対して語られた使徒聖パウロの言葉です。

なぜ希望は欺かないのでしょうか。希望を通して神様は確かな愛を示してくださるからです。これは神様に会うためにローマの町に巡礼をする人たちや各教区や小教区で聖年を祝うすべての信者に共通することです。教皇フランシスコは希望を福音宣教の基礎にし、教会の宣教は希望を伝えていくようにと述べ、すべての人は良きものへの希望を持っていると確信しておられます。希望は、信仰と愛と共に、対神徳（キリスト者の生き方の本質を表す三つのもの）を形作るものであり、クリスティアン的生活の特質です。

次に、通常聖年公布の大勅書の重大な課題になっているのは、ゆるしです。ゆるしによって、過去のことは変えられず、既に起こったことに変化が与えられるものでもありませんが、復讐や憎しみ、敵対の無い未来の生活を送ることが可能になるわけです。涙があっても、ゆるしの光に未来が照らされるなら、綺麗な目で過去のことを読みとれるようになります。現在、互いに許し合おうともしないで、復讐や互いに敵対する傾向が見られます。これは、未来を希望に導いていないし、逆に絶望に導くのです。そして、すべての人の幸せ (bonum commune) への到達を妨げているのです。

『希望は欺かない (Spes non Confundit)』2025 年通常聖年公布の大勅書は宣教、希望、そして希望の実現の深い関係を表しています。この通常聖年公布の大勅書は、聖年を宣言すると同時に、宣教とそれに伴うゆるしを具体的に二つの特性で表しています。まず、希望のゆるしを見えるようにすること。次に、適切な表現で、現代に生きるすべての人が希望に近づけるようにすること。人間を囲むさまざまな文化には対話が助けとなるものがあります。平和をまもること、次世代へ命を継承すること、死刑に反対することは記すべきものです。口先だけではなく積極的に互いに実行することが必要です。牢にいる人たちが自信と勇気をもって未来を見極められるよう支えるためにも聖年のドアを開きました。死刑に反対するようにと世界中の司教たちに命じ、若者を大切に、病者を励まし、難民生活をしている人たちに希望を与えるようにと述べました。そのような人たちを開いた手で迎え、尊厳のある人間として預かることによって、将来を造っていく友として受け入れねばならないと述べています。

そして、通常聖年公布の大勅書を通して述べた「希望は欺かない」は、希望のゆるしを意味します。

全ての被造物の尊厳を守り、不公平によって深刻化する不正義をただすこと、負債を返せない国々を赦してあげるようにと話されました。これは寛大になるということ以上に、正義の問題です。1700年に行われた第1ニケア公会議を記念しながら、キリストに従っているすべてのクリスティアンの一致を呼びかけています。

通常聖年公布の大勅書を理解するためのもっとも重要なことがあります。これまでは、信仰と愛を強調しすぎた結果、希望自体は大きなことにもかかわらず、忘れられてしまったということです。キリストによる救いと永遠の命の約束を得るために、基本的な力、すなわち希望そのものが忘れられてしまいました。教皇フランシスコは情熱を持って希望をテーマとして、具体的に希望について教えています。救いの長い歴史の中で、私たちはすでに救われていること、人間の歴史、自分自身の歴史は目標のない旅ではないこと、神様に会うための旅ととらえるようにと教えています。こうして、再び来られる主への希望と永遠の命への希望により生活していきましょう。

大勅書では、希望についてのテーマの中で、人間の心の中にある、答えの難しい疑問や質問にも触れています。例えば死に直面するときの疑問です。愛している人たちが帰天されたときにどこへ行くのか、行く所はどのようなところなのかです。死んだ後の命は本当にあるのでしょうか。あるのであればどのような生命なのかです。私たち一人ひとりが神の裁きを受ける時、深い慈しみのうちに裁きが行われることを心にとめましょう。教皇フランシスコは命がとられた後のことを答えています。イエスと共に死を超えた永遠の生命に入り、ご自分の限りない愛のうちに私たちは永遠の命を得、完成された神との一致により永遠の命を味わいます。希望によって私たちが直面するすべてのあらゆることが明らかになります。見えるような形になります。

『希望は欺かない (Spes non Confundit)』2025年通常聖年公布の大勅書の中にある教皇フランシスコの考え方は、全般的に、希望についての説明、希望のしるしとしての旅がもっと強くなるためのものです。そして歴史を辿って、教皇は希望を実現するようにと強調されました。特にすべての人の人生のために責任を持つ人たちに対して話されています。

『希望は欺かない (Spes non Confundit)』に描かれた事象は現代的なイメージを表しています。人生の中にあるドラマティックなすべての出来事に対して、一人で希望するのではなく、他の人と共同体の中で協力しながら希望するべきことを示しています。キリストの十字架の道をたどりながら人生を変えていくということです。

聖年にあたり、教皇フランシスコが期待していることについて書かせていただきました。役に立ちますように。

2025年4月

カトリック上野毛教会 主任司祭
ペトルス・ウィリー・ソバ・ドイ O. C. D.